


健康登山47: 自然歩道25 (伊賀富永～霊山～柘植駅)

コース	富永バス停 1.0km/16 4.4km/113 4.0km/56	新大仏寺 0.4km/13 田代湖 0.7km/16 名阪国道(芭蕉公園) 1.9/30	三角点 0.1km/3 青少年野外活動センター 1.4km/45 JR柘植駅	林道横断 霊山
水平距離	13.9km	断面図 縦軸: 高度m 横軸: 距離km		
水平換算距離	14.6km			
累計高低差	登り675m、下り692m			
標準歩行時間	4:51			
実績歩行時間	5:09			



山行報告

山行日 2009・4・2(木) 天候 晴 参加者 7名

行動 伊賀上野駅9:50 上野市駅10:05 富永バス停10:54 新大仏寺11:08 新大仏寺三角点(昼食)11:56~12:26 林道横断12:32 田代湖14:04 野外センター14:20 霊山15:22~15:40 名阪国道(芭蕉公園)16:45 柘植駅17:03 京都駅18:27

記録

東海自然歩道は石山寺で山の辺ルートと本線ルートに分かれ、山の辺ルートは宇治・奈良を経て三重県伊賀の柘植で本線ルートに合流する。
したがって今回の伊賀富永～霊山～柘植駅コースが山の辺ルートの最終となる。次回からは石山寺にもどり湖南の山々を登りながら再度この柘植に至る本線ルートを歩くことになる。
8時に京都駅を出てJRで伊賀上野へ行き、伊賀鉄道と三重交通バスを乗り継いで11時に出発点の富永に着いた。南に前回歩いた青山高原と笠取山を見ながら1km歩くと新大仏寺に着く。新大仏寺は高さ100mほどの小高い山の南面にあり裏山には364.3mの三角点がある。
この裏山に三十三ヶ所観音霊場めぐりコースがあり、ここから登りは始める。三角点の近くで風を避けて昼食をした。三角点からは北に向かって下り、林道を横断し谷沿いの道を登ると田代湖へ導かれる。幾度か渡渉を繰り返すが飛び石が置かれていて整備の行き届いた歩きやすい道である。高圧線を過ぎ林道を渡ると林間の道が開けて青い湖面が突然現れる、田代湖である。田代湖の北面には青少年野外活動センターがある。
ここから200m登ると一等三角点のある霊山山頂である。山頂の手前には霊山寺へ下る分岐がある。山頂は霊山寺の大伽藍跡でかなり広く、公園のように整備されている。展望はすばらしいの一語につきる。360度を見渡せるが青山高原の風車群と伊勢湾の風景が印象に残った。
山頂までの変化に富んだ道に対して、下山道は山頂の無線中継施設へ通じる舗装路を下るので単調である。1時間ほど歩くと名阪国道のガード下をくぐる。この辺りに芭蕉公園がある筈だが見落とした。先を急いでいたので柘植駅まで直行した。
自然歩道ではないが霊山からの下山は霊山寺へ下った方がよいかも知れない。

自然歩道（富永～霊山～柘植駅）



富永を出発
11:04



新大仏寺
11:08



新大仏寺三角点
11:55



田代湖へ向う
13:15



田代湖
14:04



青少年の家
14:17



九合目で休憩
15:14



霊山の一等
三角点にて
15:33



山頂から
笠取山方面
15:35



山の辺ルート
のゴール柘植駅
17:03

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：伊賀富永～新大仏寺～霊山～柘植駅）

参考資料、HP、その他より

新大仏寺：真言宗智山派、山号は五宝山、「伊賀の成田山」ともいわれ鎌倉時代の古刹。
建仁 2 年(1202)後鳥羽法皇の勅願寺として源頼朝の開創、俊乗坊重源(ちょうげん)を開山として創建された。全国に 7 か所ある東大寺別所の一つ伊賀別所です。
重源の滅後荒廃し江戸中期(1748～1751)に再建されています。

本尊の木造如来坐像仏は東大寺復興の原型といわれ「阿波の大仏さん」と親しまれている。

元は快慶作立像阿弥陀三尊(阿弥陀、観音、勢至、各 5m)で石の台座に安置されていたが、荒廃によって頭部と石の台座しか残っていなかった。

1688 年この地を訪れた芭蕉がその様子を『丈六に陽炎(かげろう)高し石の上』と詠んでいる。

中興の祖、陶栄上人によって享保年間(1716～36)に元の頭部を使って 1727 年、仏師祐慶によって現在の木造阿弥陀如来像(蘆舎那仏)に修復された。
(国重要文化財)

【大山田村民話より】(むかし新大仏寺は雨乞いの寺でもあった。)

建久 7 年阿波の御堂(新大仏寺)を建てるところ、竜が娘に化けて天に昇りたいので力を貸してほしいと重源上人に頼みにきた。上人が断ると、今度は蛇に変わって再度頼んだので、雨のほしい時はきっと雨を降らせてくれることを条件に法華経 8 巻を読んでやった。すると天にわかにかき曇り、竜は喜んで天に昇って行った。それ以後この地方には水に困らなくなったという。

佐々木塚：新大仏寺の裏山に「近江源氏佐々木氏の祖」と伝える「佐々木源三秀義の墓」がある。

1184 年秀義が大山田村平田城主平田八郎家継と戦い平家の残党九十余人を討った後に討ち死にした。行年 73 歳

勝利後、源頼朝はその子の四男、佐々木高綱(宇治川先陣争いで著名)に命じ埋葬させたといわれ佐々木塚と呼ばれている。

田代池：湖名は田代湖。ダム形式はアースダム。1895 年竣工。

堤高 20.0m 堤頂長さ 124m 貯水容量 50 万立方メートル。

アース式ダムは主に土を材料として作られダムで、貯水池などに用いられる。

大規模ダムには向いていない。目的は灌漑用。
池沿いには芭蕉の句札が八か所立てられている。

霊山(れいざん)：標高 765.8m 一等三角点あり。冬は積雪もあるが歩けます。

山頂には嵯峨天皇の勅願で国家鎮護のため最澄の創建した霊山寺があった。
山名は山の姿がインドの霊鷲山(りょうじゅせん)に似ていることからつけられたようです。

霊鷲山はインドのラジギールを囲む五つの山の一つで、釈迦が法華経霊山浄土を説いたところといわれる。(ラジギールはお釈迦様が晩年を過ごした地)
1903年(明治36)大谷光瑞探検隊が、山頂にあるレンガ作りの遺跡を発見し
仏典上の謎の地の山「霊鷲山」と確定した。

山頂からは伊賀盆地、錫杖ヶ岳、笠取山、青山高原、空気が澄んだ日は琵琶湖、伊勢湾までえんぼうできます。

山頂付近はイヌツゲ(県天然記念物)と樹齢200年のアセビの群生地となっています。

【霊山遺跡】平安時代末期から江戸時代、山頂の奥の院を中心にした南面の敷地に七堂伽藍の一大寺院が広がっていたが1581年『天正伊賀の乱』で焼失した。
五輪塔や聖観音の祠が往時を忍ばせる。山岳寺院跡は県史跡になっている。

『天正伊賀の乱』は、伊賀の国主北畠氏の養子として入った信長の子、信雄がその翌年北畠一族を暗殺し、南伊賀の支配者になり、信長に無断で約9500の兵で伊賀へと侵攻した。それを迎え撃った国人たちは狭隘な地形と忍術を駆使して激しく抵抗した。武将の「柘植三郎左衛門」が討死、6千の兵を失って信雄は伊勢に退却した。侵攻から撤退まで僅か3、4日のことであっらしい。

信長は激怒し、伊賀衆に激しい増悪を燃やすが、石山本願寺や、毛利氏などの戦いに伊賀衆の報復に手が回せなかった。

天正8年(1581)石山本願寺との講和が成立。よく天正9年9月3日より信長は伊賀攻めに乗り出した。

北畠(織田)信雄を総大将とし、総勢4万4千人という規模のものであった。
対する伊賀勢は戦闘要員5千人程度と見られている。

織田勢は四方から攻め込み焦土作戦を展開。徹底した放火、破壊、殺戮を行

い、夜間は松明を真昼のごとく焚き続け、闇に乗じて動く行動を封じてしまった。

激戦地の長田荘の比自山では女子供含めて約1万人が抗戦したという。

芭蕉公園：福地城跡にある公園。本丸跡を公園として活用されている。

城は四方土塁の掻揚式の築城。大手門構えの石塁があり東北隅に石蔵跡や井戸も残る。(県史跡)

【福地氏】平宗清の末裔、この地方の土豪(国人)であった。天正9年「伊賀の乱」で道案内の功労があった福地伊代上宗隆は信長の威光をかり強大になった。しかし信長の死後事態は急変し、伊賀の土民たちの攻撃を受け、他国に落ちのびた。

福地宗隆の弟は、のち帰郷し、福地の姓を捨てて、一族の松尾姓を称した。その松尾家から松尾芭蕉がでています。

【平宗清】平家全盛の折、幼少の「源頼朝」を捕縛したが、助命嘆願し預けられている。屋島の戦いには平宗盛の下に馳せ参じているが、西海落ちのときは同行していない。

後に頼朝から伊賀の土地を貰い、「柘植(つげ)の木」を植え、根付いたら我が姓を柘植と変えると言い「柘植」と姓を変えたという。

【伊賀町民話】ある昔領地を定めるため一人の男が毎日毎日あちこち歩いて諸方を廻っていた。或るとき山あいの村に辿り着いたとき、持ち続けてきた柘榴(ザク口)の木で作った1本の杖を地面に突き立てた。男がこの地を去っても、地面に突き立てられた杖は残り、何年か経ち杖から根が生え地面に根付いた。この杖(ザク口/柘榴)を植えたところから、この山あいの土地は「柘植/つげ」と呼ばれることになった。

萬寿寺：曹洞宗の寺院で松尾氏代々の菩提寺。芭蕉の供養塔もある。

柘植駅：明治28年加太(かぶと)峠にトンネルを掘り、柘植経由で四日市～草津間が開通した三重県内最初の鉄道駅。

都美恵(つみえ)神社：祭神、栲幡千千比賣命、経津主命、布都御魂命、他合祀33柱。起源は古く、2～3世紀に上るとある。(出雲族が柘植に移住してきている。)元は霊山の中腹「穴師谷」に鎮座していたが、正保3年(1646)大洪水で社殿が流され崩壊したので現在地に遷された。

明治 42 年の合祀によって柘植郷の総鎮守となる。

大正 11 年今までの社名「穴石神社」を、倭姫命ゆかりの「元伊勢」第 11 番巡歴の地「敢都美恵神宮(あえとあえのみや)」の元社号をとり「都美恵神社」に改められた。(柘植駅から徒歩 10 分)

徳永寺(とくえいじ) : 天正 10 年本能寺の変で「徳川家康」が伊賀越えで避難途中で休憩(1泊)した寺で、このとき地侍が不眠の警護をした。後日、礼として瓦に葵紋の使用を許した。

(都美恵神社の西、柘植小学校の西、萬寿寺から北約 800m)

霊山寺 : 霊山の山頂にあったが、信長の伊賀攻めで焼失。

寛文年間(1661~73)黄檗山万福寺の「瑞見禅師」によって、霊山の中腹に再建されたのが現在の霊山寺です。

本尊は十一面観音菩薩立像で 33 年ごとに開帳される。

山頂の奥の院に聖観音(1675 年作)が石の台座(1295 年刻名)に安置されています。

霊山寺を中心に 500 本の桜が植えられ 4 月中旬には桜祭りが行われる。

樹齢 300 年太さ 4.3m のオハツキイチョウは県天然記念物指定。

また、寺の旧参道や釣鐘堂周辺などに 100 体ほどの石仏群がならんでいます。